

News Release

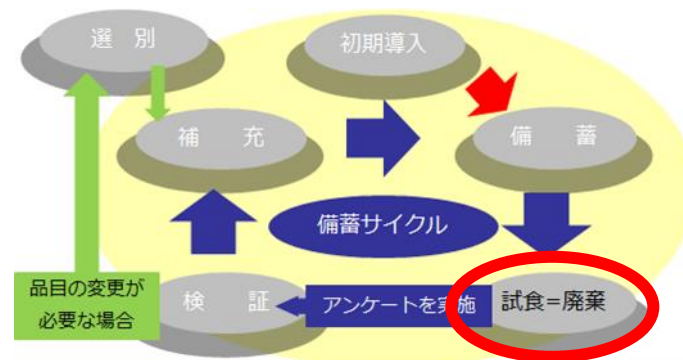
〈災害食サイクル保存〉推進の第一歩として、
本社において災害食の試食訓練を実施

東急ファシリティサービス株式会社（取締役社長 瀧名 節）は、2018年1月9日、本社にて、〈災害食サイクル保存〉推進の第一歩として、災害食の試食訓練を実施しました。

当社が推進する、災害食の備蓄の考え方は【一括購入の後、試食を繰り返し、不足分は適宜補充】というものです。これにより、再購入のコストが分散し、廃棄等のコストは不要になることや、試食による「食」への不安払拭、また災害時に何が必要かを考える機会にもなり、有事の際への備えが強化され、災害食を日常食に近い形で食べ慣れる事で、災害時においても食事の変化によるストレスが軽減されると考えるからです。よって当社は、試食訓練を繰り返し実施しています。

また一括購入の後の保管については東急ベルと連携しており、定期的な試食訓練により社内備蓄が減少した分の補充を、東急ベル倉庫から定期的に配送することで、〈災害食サイクル保存〉を推進しております。

（参考：災害食マネジメントのイメージ図と、今回の実施項目）



当社は、首都直下地震における被害予測の数字や、東日本大震災などの被災企業からのお話を伺うなどの情報収集により危機感を強め、災害食への取り組みをスタートしました。

今後も引き続き、災害食の重要性や必要性について、社内のみならず社外への啓発活動も視野に入れつつ、積極的に活動してまいります。

【本件に関するお問い合わせ】

東急ファシリティサービス株式会社 経営統括室 総務・BC推進部 BC推進課（担当：菅原）

TEL：03-6372-0112

FAX：03-6372-0145